

オンコロジーヘルパーの紹介

(文責 外来化学療法部)

高野満希子、中田和美、高島幸恵、
柳原一広 福島雅典)

今回外来化学療法部にいるオンコロジーヘルパーの紹介をさせていただきます。

第12回京大がん研究会で紹介しましたが、院内にはまだまだ外来化学療法部のオンコロジーヘルパーを知らない方が大勢おられると思います。

当院の病棟スタッフは、医師、看護師、看護助手、病棟クラークで構成されており、外来スタッフは医師、看護師、看護助手、外部委託の各科受付、各種検査技師等で構成されています。外来化学療法部には当院の他部署にはないオンコロジーヘルパーという職種がいます。

オンコロジーヘルパーは外来化学療法部開設にあたり、看護師数が足りず、受付業務だけではなく患者さんのお世話もできるような人材が必要であるという事で、医療事務の資格を持ち当院で外来の受付業務をしていた外部委託職員のなかから人材を選びました。

外来化学療法部のオンコロジーヘルパーはがん外来抗がん剤治療のチームに欠く事のできない一員として看護の専門的判断を要しない療養上の世話業務および診療補助にかかわる周辺業務をおこなっています。

業務内容は患者さんの外来化学療法部の受診手順の案内や室内の設備の説明、化学療法中の患者さんの介助、他診療科や関連検査室との連絡、翌日の予約状況の確認や準備等です。また外来で化学療法を実施する場合、患者さんは抗癌剤の副作用について、自分自身で管理しなければなりません。外来化学療法部のスタッフは治療中だけでなく、自宅での患者さんの状態にも責任をもっています。通院中の患者さんから全身状態の悪化や家族からの問い合わせに関する電話も多く、それに対応するのもヘルパー業務の一つです。

オンコロジーヘルパー達は各スタッフの業務の進行状況を確認しながら上記の業務を行っています。その事で他のスタッフは患者さんの治療をより安全にかつ効率的に進める事が可能になり現在、外来化学療法部にとって不可欠の職種となっています。

当院では病棟でも外来でも、医師や看護師がそれぞれの業務に専念できていない部分があり、医師や看護師以外でも可能な様々な業務をせざるを得ない状況があります。たとえば外来では疾患の説明以外の検査室、採血室の場所、その他入院受付、会計の事、次の診療予約について、また予約変更方法について、それから院内、院外処方等の説明、また時にメッセージ業務と、診療中に患者さんのさまざまな質問にこたえざるをえ

ない部分もあり、またそれらの業務は医師や看護師以外でも十分可能であるものも含まれます。

外来化学療法部では、物理的に限られたスペースの中でしかスタッフ全員が動かない事もあり、医師や看護師でなくてもできる業務をオンコロジーヘルパーに委ねる事が可能になったと思います。彼女達ががん治療のチームの一員としてなくてはならない存在になるまでには医師や看護師の教育だけではなく、当人達の努力があった事はいうまでもありません。

医療の世界はいままでに比べ患者さんから求められるものがどんどん多くなってきています。それらの要望に応えていくためには、医療現場に医師や看護師、検査技師だけでなくもっと多くの職種に入ってもらって患者さんを支えていく事が必要ではないでしょうか。

今後、積貞棟の開設と、それに伴う外来化学療法部の拡充にあたってはこれらの事が重要になってくると思います。これまでは外部委託職員であるため身分の保障も充分ではありませんでしたが、病院職員としての採用を検討していく時期と感じています。



